

(様式1) 実践事例

学校名	二本松市立二本松第一中学校	校長名	鈴木 一高		
住所	福島県二本松市郭内2-56-1	児童生徒数	466	学級数	19
TEL	0243-23-0870	ホームページアドレス	http://www.city.nihonmatsu.fukushima.jp/1-jh/		

## 一人一人の学ぶ意欲を高める言語活動の工夫

### 1 少人数指導の方針

- より生徒が必要感をもち、学ぶ意欲につながる学習課題を設定し、思考が深まるような学習形態の工夫、確かな学力につながる学習過程の工夫を図る。
- 生徒同士によるかかわりあいに教師が援助する。また、さまざまな生徒の考えを、教師がコーディネート（つなぐ、気付かせる、広げる、深めさせる）する。
- 「読む」「書く」「話す」「聞く」といった言語活動を、効果的に取り入れる。

### 2 実践の概要

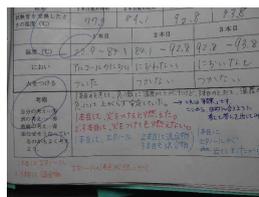
#### (1) 国語科 課題選択学習の実践 第1学年「文法」

- ① 導入では、2種類のゲームⅠ「いつ・どこで・だれが」(文節)Ⅱ「合体文」(単語)を行い、文節、単語学習への学習意欲を喚起させる。
- ② 全員で取り組む基礎的な学習の後、コース別課題学習を行う。
  - ・ A 基礎充実コース…文節・単語の基礎的・基本的な問題に取り組む。
  - ・ B 問題解きまくりコース…難易度の異なるさまざまな問題に取り組む。
  - ・ C 何でも挑戦コース…教科書の文章や歌詞を文節や単語に区切る。  
文節・単語に区切る問題と解答を作成する。コースは自由選択とし、Aは教師が助言、B・Cコースは少人数グループを作り、①ヒント解決、②学び合い解決のいずれかを選択させた。

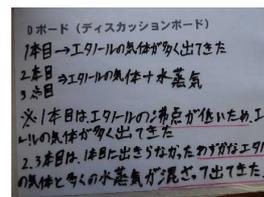
#### (2) 理科 Dボード、ワークシートを工夫した実践 第1学年「混合物加熱時の変化」

- ① エタノールと水の混合物を加熱して出てくる物質の予想を立てる。
- ② 少人数グループで、実験および考察を行う。

個人での考察後、消して書けるDボード(ディスカッションボード)を用いて考察を行った。また、自分の考察を黒、班の考察を赤、他の班の考察のうち参考となるものを青でワークシートに書かせた。



<ワークシート>



<Dボード>

### 3 実践の成果と課題

- 文法学習の導入を工夫し、コース別(習熟度別)学習や多様な学習形態を行うことにより、生徒は意欲的に学習に取り組み理解を深めることができた。
- 話し合いの形態を整え、Dボードを使用することによって、充実した話し合い活動ができた。他者の考えを聞きながら、考察を深めていく点で効果的だった。
- 多様なコース別学習を設定し、より個に応じた助言・支援をするためには、T・Tなどの手立ても必要であると考えた。
- 意図的に個人の考えを発表させて深めていく場面と、他者との意見のすり合わせの中で考察を深めていく場面を設定し、生徒一人一人の考える力を育てたい。